作成年月日　2003年 9月30日

改訂年月日　2025年 3月 5日

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

製造者情報	会　　社	ホーザン株式会社
	住　　所	大阪市浪速区幸町1-2-12
	担当部門	マーケティンググループ
	お問い合わせ窓口	ホーザンテクニカルホットライン
	電話番号	06(6567)3132
製品番号	HS-371 / HS-372 / HS-374	
製品名	ハンダ	
推奨用途及び使用上の制限	工業用	
	ハンダ付け用	
使用上の制限	推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと	

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	： 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	： 区分2
	呼吸器感作性	： 区分1
	皮膚感作性	： 区分1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	： 区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	： 区分1(肺)

注：上記に記載されていない項目は、[区分に該当しない]又は[分類できない]のいずれかを示す。

GHSラベル要素

絵表示　：

注意喚起語　：危険

危険有害性情報　：アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激
吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害(肺)

注意書き

安全対策　：粉じん、煙(ヒューム)、蒸気を吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
換気が不十分な場合 ： 呼吸用保護具を着用すること。

応急措置　：皮膚に付着した場合 ： 多量の水で洗うこと。
吸入した場合 ： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合 ： 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合 ： 医師の診察／手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合 ： 医師の診察／手当てを受けること。
呼吸に関する症状が出た場合 ： 医師に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管　：換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

廃棄　：内容物・容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ： 混合物

化学名又は一般名	含有量（mass%）	官報公示整理番号 化審法／安衛法	CAS No.
ハンダ（96.5～97.5 mass%）			
錫	95.7～97.0	―	7440-31-5
銅	0.48～0.69	―	7440-50-8
ニッケル	0.03～0.07	―	7440-02-0
ゲルマニウム	0.01以下	―	7440-56-4
フラックス（2.5～3.5 mass%）			
ロジン	1.1～1.7	7-935/―	8050-09-7
その他	1.3～1.9	―	非開示

注：労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

4. 応急措置

吸入した場合　：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当てを受けること。
気分が悪いときは、医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合　：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を水で洗うこと。
多量の水で洗うこと。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合は、医師の手当てを受けること。
気分が悪いときは、医師の手当てを受けること。

眼に入った場合　：水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合　：直ちに吐出し、その後必要に応じて医師の手当てを受けること。

注意事項　：いずれの場合でも、その症状により直ちに医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤　：粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂、泡、水噴霧

使ってはならない消火剤　：棒状注水

火災時の特有の危険有害性
：火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法　：消火作業は風上から行う。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置
：消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
：推奨される個人用保護具を着用する。
詳細については、第 8 項の「ばく露制御/個人保護」を参照。
関係者以外の立入を禁止する。
可能であれば火から遠ざけ、不必要な危険を避ける。
エリアを換気する。

環境に対する注意事項　：下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材
：安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
漏出物を回収すること。
廃棄するため、塵取りで清掃するか取り除き、密封された容器に入れる。

二次災害の防止策　：付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策　：『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項　：推奨用途以外で使用しないこと。
全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
作業場の換気を十分おこなうこと。
漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
眼、皮膚、衣類に付けないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
指定された個人用保護具を使用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。

接触回避　：『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管

適切な保管条件　：直射日光を避け、換気の良い涼しい場所に保管すること。

安全な容器包装材料　：包装、容器の規制はないが漏出等を防ぐために破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

化学名又は一般名	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
錫	未設定	未設定	TWA：2mg/m^3 (I),STEL
銅	未設定	未設定	TWA：0.2mg/m^3,STEL (Fume, as Cu); TWA：1mg/m^3,STEL (Dusts and mists, as Cu)
ニッケル	未設定	1mg/m^3	TWA：1.5mg/m^3 (I),STEL (as Ni Elemental)
ロジン	未設定	未設定	TLV-TWA：0.001mg/m^3 (I; Inhalable particulate matter)

設備対策　：局所排気または室内全体の換気を行う。
ばく露のリスクのある場所の近くに、緊急用洗眼水飲み場と安全シャワーを設置する。

保護具

呼吸器保護具　：状況に応じた適切な呼吸用保護具を着用する。
高濃度の化学物質を取り扱う場合は、送気マスクの装着を検討する。
作業者がガスや蒸気にばく露される場合は呼吸用保護具（防毒マスク等）の着用を検討する。

手の保護具　：保護手袋（不浸透性の材料のもの）

眼の保護具　：保眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具：保護服、保護長靴、保護前掛け、保護面（防災面）

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 固体
形状	： 線
色	： 銀色
臭い	： データなし
融点・凝固点	： 約227℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	： データなし
可燃性	： データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	： データなし
引火点	： データなし
自然発火点	： データなし
分解温度	： データなし
pH	： データなし
動粘性率	： データなし
溶解度	： データなし
n-オクタノール／水分配係数(log値)	： データなし
蒸気圧	： データなし
密度及び／又は相対密度	： 約7.4(25℃)
相対ガス密度	： データなし
粒子特性	： データなし
その他のデータ	： データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	： データなし
化学的安定性	： 室温・空気中では安定
危険有害反応可能性	： ＜参考　錫のデータ＞ 強酸化剤、酸類、強塩基類、ハロゲン、硫黄等と反応する。
避けるべき条件	： 混触危険物質との接触
混触危険物質	： ＜参考　錫のデータ＞ 強酸化性物質、酸類、有機過酸化物との同一保管は禁止
危険有害な分解生成物	： データなし

11. 有害性情報

急性毒性	： 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	： 分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	： GHS 分類に基づく
呼吸器感作性	： GHS 分類に基づく
皮膚感作性	： GHS 分類に基づく
生殖細胞変異原性	： 分類できない
発がん性	： 分類できない
生殖毒性	： 分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	： GHS 分類に基づく

特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：GHS 分類に基づく
誤えん有害性　：データなし

12. 環境影響情報

生態毒性　：分類できない
残留性・分解性　：データなし
生態蓄積性　：データなし
土壌中の移動性　：データなし
オゾン層への有害性　：データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物　：都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装　：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制　：海上輸送はIMDG規則、及び航空輸送はIATAに従う。
非危険物

国内規制

陸上規制情報　：非該当
海上規制情報　：非該当
航空規制情報　：非該当
緊急時応急措置指針番号：ない

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策
：輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れが無いように積込む。
荷くずれ防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
乱暴に扱わない。

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)

：該当しない

労働安全衛生法　：名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)

すず及びその化合物（含有量:95.7 － 97.0%）

ロジン（含有量:1.1 － 1.7%）

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)

すず及びその化合物（含有量:95.7 － 97.0%）

銅及びその化合物（含有量:0.48 － 0.69%）

ロジン（含有量:1.1 － 1.7%）

注:労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

濃度基準値設定物質(安衛則第577条の2第2項、令和5年4月27日告示第177号、公示第24号)

ニッケル

皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質(安衛則第594条の2第1項、令和4年5月31日基発0531第9号、令和5年7月4日基発0704第1号・5該当物質の一覧)

ロジン

毒劇法　：該当しない

16. その他の情報

参考文献

ExESS ：株式会社江守情報

JIS Z 7252 ：2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法 ：(財)日本規格協会

JIS Z 7253 ：2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 ：(財)日本規格協会

NITE化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP)

CAS RN® ：米国 CAS(Chemical Abstracts Service)

その他

記載内容は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、製品の適応性・安全性を保証するものではありません。取扱いには十分注意してください。

このデータの使用による損失や損害について一切責任を負いません。ご使用者の責任において安全対策を実施の上、取扱い願います。